

2022 年度 福祉助成金（活動助成） 成果報告書

ふりがな	おかやまけんなんびょうだんたいれんらくきょうぎかい	
団体名	岡山県難病団体連絡協議会	
代表者名	伊山 義晴	
連絡先	住所	岡山県岡山市北区南方 2-13-1 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO 会館 2 階
	TEL	086-222-0071
	E-mail	okananren@lime.ocn.ne.jp
	URL	nanbyouren-okayama.com
設立年（西暦）	1979 年	
助成活動名	将来のために備えよう介護への知識	
助成額	200,000 円	
活動内容	目的	介護保険を利用したいときにどこに相談すればよいか窓口を把握していない利用者が多く、制度を理解していないために声を出せない、当人が声をあげる努力をしなければ十分な制度を受けることができないという現状がある。また、在宅介護を推奨している世の中だが、患者・家族が介護に追い詰められないための線引きや在宅介護が困難と判断をどうすればよいのか。こういった現状を改善するためには、しっかり相談できる環境を構築する必要がある。そのためにも介護に関わる相談所でもある医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャーとの連携は欠かせない。医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャーと名前を聞くが、実際どのような役割をしているのか把握している人が少ない。医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャーがどのような役割を担うのかを学び、自ら相談できる環境作りの必要性や自分にあったサービスを利用により在宅での介護負担軽減につながることへの理解につなげる。併せて、介護予防への取り組みとして手の運動、また生活を円滑にするための自助具である福祉用具について学ぶ。
	内容	<p>①令和4年7月16日(土)開催 『困ったとき、相談できていますか？安心できる介護のために 介護講座』 ・医療ソーシャルワーカーの役割 ・ケアマネージャーの役割 ・介護予防に取り組もう！手の運動</p> <p>②令和4年9月3日(土)開催 『介護講座 福祉用具見学会』</p>
	成果	<p>① 医療ソーシャルワーカーは、こういった場所に在中しているか、患者の生活基盤に関わらず、必要な医療を受けられるようにサポートをするなど相談例を交え、詳しく聞くことができた。患者また患者家族の思いを大切にされると同時に、患者の何もかもを手助けするのではなく、患者の自立(自律)するための支援を行うということが医療ソーシャルワーカーの役割という事もわかった。困ったときは、病院の医療ソーシャルワーカーに気軽に相談をしてほしいと伝えられ、参加者からは「医療ソーシャルワーカーに色々相談できることが知れてよかった」「相談出来る機関、相談方法が事前に分かり、とてもよかった」など安心のお声が多くあった。</p> <p>ケアマネージャーについて、5年以上医療従事した国家資格者が介護支援専門員になることができ、資格による得意分野にも差があるということを理解した。そのため利用者もケアマネージャーの得意分野について理解をすることも必要であることを知った。ケアマネージャーに相談したい場合、ケアマネージャーの探し方が行政のホームページでの検索、近くの地域包括支援センターや福祉事務所、委託介護支援事業所などに直接相談をすることができることを学べた。また介護保険認定の受ける流れ、こういったことを調査され、どのくらい</p>

で認定されるのかを例を交えて実際に聞くことができた。日常生活に何かしら困りごとが出て来た時には、近くの地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に相談を、出来なくなったことがまたできるようになるため、これ以上悪くならないようにするために一緒に考えるケアマネージャーがいることをより理解できた。参加者からは「まだ先の事と思っていたが、参考になった」「今後の不安がなくなった」「介護保険を上手に使い、ケアマネージャーと繋がりを持つということもよくわかった」など安心の声が多くあった。

介護予防のための手の運動を全員で実践し、手の筋力をつけるだけでなく、脳のトレーニングにもなり、認知症予防にも効果があることを知り、手のトレーニングの大切さを理解した。

②
福祉用具見学会を行い、移動・歩行を補助する福祉用具を中心に体験見学を行った。まだ利用していない方も使い方を知る事ができ、また患者家族が今利用している用具と比較ができ、同時にあることを知らなかった用具を知る事に繋がった。見学後、介護講座全体の質問時間を設け、アドバイザーから福祉用具の借り方、パンフレットの見方、利用の仕方を詳しく聞くことができた。また困ったときは、病院や地域包括支援センターなど気軽に相談をしたらいいということも改めて伝えられた。

介護をしている、まだ利用をしていない人にとっても、事前に相談場所を知り、相談ができる力を身に着けることはとても大事なことで講座を通してわかった。

今後の課題と対応策

介護保険制度や医療ソーシャルワーカーやケアマネージャーに相談できる機関などを事前を知る事は、安心にも繋がり大切だとわかったが、参加者の声の中には、介護を受ける前のことを学びたいという現状をよりよくするための情報発信を望む声もあった。難病患者や疾患を持った人にとっても病気を悪化させないため体の本質をよりよくするための情報を求めている人も多い。コロナ禍で特に健康情報に関する情報は正しいもの、間違っているもの、古いもの、新しいものなど多く飛び交ったが、正しい情報を見極める力が今後より必要になってくる。そのためにも正しい情報を直に聞くことができる場はやはり大切である。介護にならないためにも健康の本質を高める必要がある。今後、正しい健康情報が学べる講座を計画し、体をよりよくするための情報を発信していきたい。

《困ったとき、相談できていますか？安心できる介護のために 介護講座》

写真の提出

《福祉用具見学会と見学後の質問時間》

